

911.3
7
地

後  
挽  
首  
途  
地

UNIVERSITY OF TORONTO

清江

清江



清江



清江の北はわがあまのまね清の  
清江の北はわがあまのまね清の  
清江の北はわがあまのまね清の  
清江の北はわがあまのまね清の

清江の北はわがあまのまね清の

清江の北はわがあまのまね清の  
清江の北はわがあまのまね清の



舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ  
はくしるしをよみかへしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ  
舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

短歌行

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

舟のゆくはゆるくしるしをよみかへ

遊ユりリきキれレきキ子シのノくク舟フネ

鷺サギいイひヒくク原ハラ日ヒのノ宮ミヤもモ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ

白シロいイはハくク根ネ津ツ盗トウ人ニン紅ベニ

下シタへヘ衣イのノ衣イ去サしてシテもモのノ醉スイ仲ナカるルもモ

山ヤマのノ音ネをヲ森モリとト山ヤマのノ音ネをヲ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

舟フネもモくク小コ宅タクのノ音ネのノ音ネ紅ベニ

とよむる旅の首飾を

旅の首飾を

名録

鳥の羽のふりかたのむら

松の葉のふりかたのむら

金糸のふりかたのむら

雲のふりかたのむら

鳥の羽のふりかたのむら 信 虎

松の葉のふりかたのむら 信 虎

金糸のふりかたのむら 信 虎

雲のふりかたのむら

鳥の羽のふりかたのむら

松の葉のふりかたのむら

金糸のふりかたのむら



真徳くも七葉くも月の露  
位

刺結たるも青子も霞も  
位

もつたるも白くも青葉のついで  
位

もつたるもよともよもあや  
位

まつとるもねてねとあつた  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位

角はくも柔初よ解のよもよも  
位

もつたるもよもよもあや  
位

葉子もつたるも草序のよもよも  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位

もつたるもよもよもあや  
位



て葉の影を留し 枝をくは

影をくは 影のくは 影のくは 影のくは 解

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 辺

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは ね

名録

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 訂正

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 泉石

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 鉄冠

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 可貞

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 仙文

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは 湖解

文月を 影のくは 影のくは 影のくは 湖解

影のくは

影のくは 影のくは 影のくは 影のくは

影のくは

金毘羅の宿きね折し江守の  
相別る宿きねの宿きねと  
宿きねと宿きねと

山花の宿きねや宿きねと宿きね

きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
山花の宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね

折し宿きねの宿きねと宿きねと宿きね

江守の宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね  
宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね

宿きねと宿きねの宿きねと宿きねと宿きね

文月七日親音から一くはるのち  
中より行時の子をとりて親者一  
はるしめられたるものとせらるる  
ふありて音より行時の中より  
旅のちをとりて音より行時の中  
より行時の子をとりて親者一  
はるしめられたるものとせらるる

年 月 日 時 分 秒

名 簿

月 日 時 分 秒 年 月 日 時 分 秒  
日 月 日 時 分 秒 年 月 日 時 分 秒  
日 月 日 時 分 秒 年 月 日 時 分 秒  
日 月 日 時 分 秒 年 月 日 時 分 秒

文月七日親音から一くはるのち  
中より行時の子をとりて親者一  
はるしめられたるものとせらるる  
ふありて音より行時の中より  
旅のちをとりて音より行時の中  
より行時の子をとりて親者一  
はるしめられたるものとせらるる

年 月 日 時 分 秒

まのーあゝらじー宗徳法師を  
あゝらじーのあゝらじーを  
るた坊やうー山の御平僧にあまて  
法在橋やうーのあゝらじーの橋と  
うてーのあゝらじーのあゝらじー  
のあゝらじーのあゝらじー

ハ男之座ハ二座ト云ハ  
ヲ秋ハ一白鳥

短歌行

秋のくやも暇さう女中じ

百七

軍士のあゝらじーのあゝらじー下御

里紅

花柳も海の位長の日をて

正南

玉味坊のあゝらじーのあゝらじー

楚蓮

あゝらじーの中ハあゝらじーのあゝらじー

神竹

被とあゝらじーのあゝらじー

赤松

まのーあゝらじーのあゝらじー

雲吹

あゝらじーのあゝらじー

文川

路へやゝ遠くよふのちかき音に

花下まにけし草のうらみ

をかくしのよとむよまのきり

くははるるるるるるるるるる

二  
新の舞うまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまの

え服をうらむまのまのまの

場をいちはははははははは

都へまのまのまのまのまの

道後の村へまのまのまの

へまのまのまのまのまの

余江のまのまのまのまの

也午よゆまのまのまのまの

独居のまのまのまのまの

馬の首はまればあつかるはら 百五

ふらふらもふらふらのねあや冠林 正甫

さ達のむかめあひいふふとむらけり 文川

一くくアふじや梅のかる越 冬松

石橋とふふききね柳糸 慧菴

ふらふらもふらふらのねあや冠林 正甫

むの酔さききね柳糸の夕霧 松吟

初詣のむらあまのわさの樓 如衣

名月やねふらふら 所の書 了旬

文月中頃親書とのくくよきまら

大那東の何来相夫幸ふ縁た

作樂よりあふふらふら

ふらふらもふらふらのねあや冠林 正甫  
新くくあまのむらとよ解の雲ふら  
新くくあまのむらとよ解の雲ふら

我も推櫓の二るよ御座のちうらひ  
庭の四曲のうらみよまのむすの  
不信のんははらふらうとてとて

飛ぶ

やうらふやふまはとあまの

文月や御座のちうらひ  
名録

業もふれうころる照や燈の女

相天

いれの天人ありてまのむ

文可

乳母の膝よ高蒲刀やまよの時 雲水

年の子れらるるまのむすの 捨衣

歌よけうのらうや初のは 花身

意のまはれ高や高座のちうらひ 梅月

橋妻よ抱きあうとて 壽正

伊豫

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 5 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, appearing as a single line or short phrase.

Handwritten text in Arabic script, consisting of a single line of cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 3 lines of cursive writing.



こゝの目よりしるし給ひしはまゝに  
 幸ひ整のちよえぬく一なるかみ蔵の好  
 ちの姿もあはれさしきんはかき  
 ちの姿もあはれさしきんはかき  
 のあはれさしきんはかき  
 御くし言流と彩色のちかき  
 後にはまゝに一なるかみ蔵の好  
 物ね

鶯  
 鶯のねのねのねのねのねのね

鶯別

舊門を信法主法の幸とりよつた  
 ねえの傍よ踏破ちもさくま  
 ちのちのちのちのちのちのち  
 ちのちのちのちのちのちのち  
 ちのちのちのちのちのちのち

後尔

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

たのむの公雅子と我作行脚のじい  
お別れる人あはれなめはれあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ  
わらわはあはれなわらわはあはれなわ

ついで

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

わらわはあはれなわらわはあはれなわ

錢石

松賦

るるせし松の旅況の角と境

も那よあそびくちわなかく 松

葉月かりて流のこころ 松竹の

わが 以弁言よ 松の 松竹

るの言もいと 松の 松竹

わが松のこころをいかに松の

松賦

る松あるの松家いけ松は松のこころと松は

行又征馬の竹竿とつらとつら 松の 松竹

あまのちようく月の日にお松よ目と松よ

ちよあまの家はいかに松の松もいかに

松よ一松の松と松くち松の松の

松よ松の松の松の松の松の松の

松よ松の松の松の松の松の松の

松よ松の松の松の松の松の松の

松よ松の松の松の松の松の松の

松よ松の松の松の松の松の松の



Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript or letter. The text is written in a cursive style and spans across the top of the page.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a specific heading, located in the middle of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the manuscript or letter, located in the bottom half of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a title or introductory line.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific section header.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific section header.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific section header.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines.

短歌行

風鶴

草花やうらうらぬ人を神

夜もあつてもほろほろ山

寝てゐるうらやまの月と

まよりの寝よさよよとさ

寝てゐるうらやまの月と

まよりの寝よさよよとさ

大根も根株の畑を川がら

まよりの寝よさよよとさ

うらやまの寝よさよよとさ

まよりの寝よさよよとさ

まよりの寝よさよよとさ

まよりの寝よさよよとさ

まよりの寝よさよよとさ

まよりの寝よさよよとさ

里紅

更頃

藤女

お

能

藤

頃

藤

女

お

能

藤

千石からいひきりしは日社  
 不<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>五<sup>レ</sup>物<sup>レ</sup>碩  
 匠<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>碩  
 一<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>師<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>碩  
 ち<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>第<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>月<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>碩  
 織<sup>レ</sup>給<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>忠<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>せ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩  
 常<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩  
 と<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>忠<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>懐<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>重<sup>レ</sup>かり<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩

志の<sup>レ</sup>山<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>東<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>碩  
 の<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>旗<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>標<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩

名録

夕<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>田<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩  
 や<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>素<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 も<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>名<sup>レ</sup>座<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>風<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 類<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>張<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>梅<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>碩  
 風<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 素<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 風<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 風<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩  
 風<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>碩



籙別

長崎の長崎新聞社

長崎新聞社

風流

長崎の長崎新聞社



青牛舍

翠古